

未来共創イノベーション活動支援  
平成 29 年度採択企画最終ヒアリング結果報告書

1. 企画名 新世代・自然共生科学フォーラム

2. 提案機関 国立大学法人信州大学

3. 企画の概要

自然・環境がもつ壮大なシステムを高い精度で理解しつつ、そのリスクを把握し、社会のあり方を総合的に考えるために、世代や職業を越えた、基礎的な自然科学を共通項とする地域科学コミュニティ創生を実現する。その方法として基礎科学を学んだ大学生らが主催する野外学習会や公開講座によって、高校生を含む地域的コミュニティに科学的視点を作り、サイエンスカフェに広げる。更に行政や企業、メディアが参画したプチ科学アゴラ、海外の先行事例と若い世代の提言発表をあわせた自然共生科学サミットを開催する。高校生・大学生らの新世代が、異なる世代や背景を持つ市民と対話・協働しつつ、自らの未来を考え、新しい知識の創造を目指す。

4. 最終ヒアリング結果総合所見

計画は達成され、ネットワークの定着・継続・発展が期待できる。

自然・環境、生物多様性の保全と自然がもたらす災害リスクとの共生をテーマに、世代を超えた多様な人々や地域コミュニティを対象にして、科学的知識の習得と体験的学習の両面から数多くの活動を実施したことは評価できる。更に、演習内に科学コミュニケーションに関する実習を組み込んだり、コア学生をティーチングアシスタントとして起用するなど、若手の担い手を育成する取り組みも並行して行い、事業継続のための枠組みが強化されたことも評価できる。

しかしながら、コミュニケーションの対象範囲がやや狭く感じるので、今後、信州大学として継続するにあたり、異分野への越境、超越、イノベーションも意識した取り組みとして発展してほしいことと、グリーンレジリエンスの可能性は大きいので活動の継続を期待したい。また、災害リスクは、自然の大きな力を食い止めることはできず、起こってしまう災害という現実を受け止めたうえで、我々の暮らしや社会をどのように継続するかという課題である。いずれも行政機関の施策だけで対応できる問題ではなく、1人1人が受け止めて行動することが求められる。我が国ではあらゆる地域が抱える普遍的な大事なテー

マでもあり今後に期待したい。

以上